

収穫の時 ヨハネによる福音書 4:28-42

1. 女は、自分の水がめを置いて町へ行き、人々に言った。「来て、見てください。私のしたこと全部を私に言った人がいるのです。この方がキリストなのでしょう。」そこで、彼らは町を出て、イエスのほうへやって来た。(4:28-30)
 - a. サマリヤの女はイエスとの超自然的な出会いの後、人々に伝えずにはいられなかった。
 - b. 彼女の証言によって、多くの人々が真実を確かめるため町を出て行った。
 - c. 誰でも神との出会いを求めればいずれは実現すると私は信じている。さらに私たちが神と出会った時にどのような行動をとるかということも大切である。サマリヤの女のようにであれば、ほんのわずかに神と触れたことがはるかに素晴らしい結果を生む。それは例えれば一粒の種が植えられ良い手入れを受け、元の種よりもはるかに大きなものに育つようなものである。
2. そのころ、弟子たちはイエスに、「先生。召し上がってください」とお願いした。しかし、イエスは彼らに言われた。「わたしには、あなたがたの知らない食物があります。」そこで、弟子たちは互いに言った。「だれか食べる物を持って来たのだろうか。」イエスは彼らに言われた。「わたしを遣わした方のみこころを行い、そのみわざを成し遂げることが、わたしの食物です。(4:31-34)
 - a. 肉体のためには食物、霊のためには神のみこころ、という相互関係が興味深い。私たちの体が健康に機能するためには食べ物が必要であるように、私たちの霊が健康に機能するためには神のみこころを行う必要がある。
 - b. 私たちの体が機能し続けるためには食べ物を取らなければならないが、何を食べるか気を付けないと病気になるったり死ぬこともある。同じように私たちの霊に人間的、肉体的、あるいはサタンの思いを入れてしまうと病気になるったり死んでしまうこともある。
 - c. もしもあなたが霊的に苦しいところを通っているならば、今あなたの人生は神のみこころによって導かれ、与えられた使命を果たしているのか見直してみると良い。
3. あなたがたは、『刈り入れ時が来るまでに、まだ四ヶ月ある』と言ってはいませんか。さあ、わたしの言うことを聞きなさい。目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。すでに、刈る者は報酬を受け、永遠のいのちに入れられる実を集めています。それは蒔く者と刈る者がともに喜ぶためです。(4:35-36)
 - a. イエスは、弟子たちが刈り入れの畑に気づかなかったことを非難している。もしかしたらサマリヤの地にいたことが彼らの目をさえぎっていたのかもしれない。
 - b. 弟子たちの霊的な目が見えていなかったのは、神学的、あるいは社会学的先入観によったのかもしれない。
 - c. イエスの目からは、ここは刈り入れを待っている畑であった。いつでも蒔く時と刈り取る時があり、その違いを知ることで私たちがどのように生きるべきかが変わってくる。
4. さて、その町のサマリヤ人のうち多くの者が、「あの方は、私がしたこと全部を私に言った」と証言したその女のことばによってイエスを信じた。(4:39)
 - a. イエスはサマリヤの地では刈り入れの時が来ているとご存じで収穫のために来られた。それは神のみこころであり、イエスにとって霊的な糧であった。
 - b. イエスと女のやりとりによってだけでなく、女がその地の人々に証することによっても、多くのサマリヤ人がイエスはメシヤだと信じた。
 - c. サマリヤの女の証によって信じた人々は、最終的には彼ら自身がイエスと直接出会うことによって信じた。私たちの証もそうであるべきである。もしも誰かが私たちの証によってイエスを信じたなら、その後でイエスとの個人的な出会いをすることが大切。それはイエスとのかかわりを持ちたいと望む人すべてに与えられるものである。